



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
編集 早川清志  
題字 島崎洋路

### 集中コース夏の部開催報告

## 『ぎゅっと、ぎゅっしり、山造り』

「今年もよろしくお願いします。」と三年連続参加のニコニコ顔のOさんをはじめ、北は福島県の方から西は岡山県の方まで総勢十七名の方々が参加してくれた集中コース夏の部。天候に恵まれ信州といえど酷暑となった三日間、しかも慣れない山仕事や、計算に翻弄され、大変にお疲れになったことと

思います。

チェーンソーを使った玉切りの練習から始まって、プロット設定と測樹、現在の林の状態を知るための相対幹距比や地位指数、保残木マーカー法による施業方針の決定を経て、間伐・伐出作業。そして、「この木は何の木」樹木分類。

ぎゅっと絞った山造りのいろいろを、ぎゅっしりぎゅっしり詰め込みすぎたかもしれません。「もっと伐倒を」「もっと樹木分類を」という要望もありましたが、「樹を知り、林の状態を把握し、森の将来を考えて、間伐をし、材は利用するために集めて出す。」という流れのなかで、「何か」を持ち帰って頂くことはできたでしょうか。森林塾はそれを提供することができたでしょうか。



つるを残して追い口伐り、いきます!!



輪切りも結構難しいよ～



チェーンソー事始め

間伐や伐出をする機会はなかなかないかもしれません。が、近くの山に出かけて、直径巻尺で胸高直径を測り、目で樹高を予測して、林齢を

仮定したら…。森林診断書を作ることができる。忘れてしまったことや分らなくなってしまうこと、こんなカルテができました、など何でもお寄せ下さい。

わずかな時間であったとしても、共有した想いは変わらない。これからも何らかの形でお付き合いをさせて頂ければ幸いです。

### 今回の内容 集中コース夏の部

8月1日～3日

一日目 8月1日(木)

9時 島崎先生の山小屋に集合。受付。講師の先生方の挨拶。インストラクターと塾生の自己紹介。日程



Sr?地位?...あ～が...

説明。

9時45分 チェーンソーの始動方法について、イントラ藤原さんによる全体講義。

10時15分 各班に分かれて造材(玉切り)演習。

11時30分 各班毎に直径巻尺作成。島崎先生の「括約」の説明。

12時 昼食

13時 まずみヶ丘の調査林分に移動して、各班毎に測樹開始。五年前に森林塾にて間伐を実施したヒノキ林。現在の林齢は四十

14時30分頃 測樹が終了した班から順次、小屋へ戻りデータ整理。現在の森の状態を指標で表現すると…。相対幹距比?地位



そうそう、水平にネ!



いつでも・どこでも簡単集材



寄せて・積んで・運べるキャタトラ

指数?  
**16時** 立木評価・保残木マーク法について、島崎先生の講義。  
**17時10分** 初日終了。休憩  
**18時30分** 交流会開始。パーベキューと焼きそば。  
 岡田さん、差し入れのお酒ありがとうございました。  
**20時30分** 交流会終了。

**二日目 8月2日(金)**  
**8時30分** 山小屋集合。日程説明の後、施業方針についての島崎先生の講義。  
**9時45分** 休憩。  
**10時** 各班毎に施業方針が決まり次第、昨日の調査林分に移動して保残木のマーキング。大野・椎原班は、合わせて造材演習を

現場にて敢行。  
**11時30分** 伐倒方法について、イントラ大野さんによる全体講義。「受け口」、「追い口」、「つる」をしっかり理解しましょう。  
**11時45分** 昼食  
**12時45分** まずみヶ丘区有林にて各班毎に伐倒開始。「かかり木」に苦勞しながらも間伐が進む。造材は、練習の時とは勝手が違ってなかなか大変。枝払いには、元から梢に、チェーンソーの向きを枝に合わせて変えて、これまた大変。玉切った丸太を整理するの「一仕事」。  
**16時** 突然の夕立が作業終了を告げる。小屋へ戻って、各班毎にチェーンソーの

メンテナンス講座。一・二班は公園の東屋で。三班は小屋の土間で。  
**17時** 二日目終了。

**三日目 8月3日(土)**  
**8時30分** 山小屋集合。日程説明の後、さっそく現場へ。  
**9時** 伐倒&集材開始。各班交代で「ひっぱりだこ」を使って玉切り材を集材する。三班は、イントラ坂野がロギングトラクタを搬送している間、保科先生による伐倒指導を受ける。  
**10時30分** 「キャタトラ」、「ロギングトラクタ」の内作業車による集材のデモンストレーション。  
**11時30分** 伐倒&集材再開

**12時** 保科先生の講評を頂いた後、昼食。  
**12時45分** 樹の見分け方についての島崎先生の講義の後、調査林分付近のヒノキ林にて樹木分類。  
**13時30分** 休憩時間を利用して、島崎先生による「まさわりくん」を使った薪割り実演と、イントラ藤原さんによる「ぶり縄」パフォーマンス。そして、クライマー岩田さんのぶり縄挑戦が喝采を浴びる。  
**14時30分** 小屋へ戻り、感想を書いて頂く。  
**14時45分** 島崎先生の総評の後、質疑応答。  
**15時** 名残惜しくも終了、解散。お疲れ様でした。



優しさも、厳しさも、ノウハウとともに

参加者/相内さん、芦田さん、東さん、市原さん、出澤さん、岩田さん、上野さん、江田さん、岡田さん、坂本さん、鈴木さん、滝口さん、竹垣さん、田村さん、堀内さん、松村さん、森下さん、春日井さん、柴田さん、水野さん  
 講師/保科先生、島崎先生  
 スタッフ/大野、川島、後藤、椎原、平林、藤原、早川、坂野

**次回以降の予定**  
**第九・十回「伐出」**  
**8月23日(金)・24日(土)**  
 間伐して造材した木を、ミニウィンチや林業用トラクタを使用して集材します。現場は、前回の間伐した林分を予

定。当日は8時30分に鳥崎先生の山小屋に集合。なお24日は、小屋前の鳩吹公園で「まほらいな地球元気村」というイベントが開催され、多くの人が公園に来ると思われるので、駐車場等にご注意下さい。

第十一回「見学」

9月7日(土)

午前中は、森林組合連合会の伊那木材センターの市場見学を、午後は、有賀建具店さんの見学を予定しています。

リレー通信

山が友達になつてく  
れますように

成田 彰



こんにちは 成田 彰です。昭和四十一年生まれの三十六歳。趣味は小型オートバイとささやかな木工、たき火して火を見ていじること。火を見てた方がTVなんかよりよほど面白いですよ。このごろ新しいオモチャ、七輪を買

ました。いやあ、なんてたつて酒が進みますねー。こっちは。

十五年ほど前に長野に移り住んでいます。オートバイにテントや寝袋を積んで旅をしたのを機に、人々や雰囲気が入ってやってきました。旅好きも伊那に家を建てていなじんになりました。伊那谷がとて面白い入っています。このころは面白い人々や、出来事も多いのです。



オートバイで旅したころ

まるで木の大河、与地(伊那市内)の山  
初めて山でチェーンソーを使ったのは与地の山でした。勤務先の山主さんに木をもらったのです。そこは送電線の下で大きくなった木を切ったところでした。山主さんの案内で現地に行くとき長大な木



るように思いました。ところが、いつものように山に行くとき材は搬出され、そこにはただ風が吹いているだけ。ボツと薪の山が見えました。やけに遠くに見えました。手違いで材が搬出されてしまったのです。本当は山仕事が好き

が何本も寝かせてあり、まるで木が流れる大河のようでした。このときは、まだ薪が欲しいだけでした。道具はヘルメットとチェーンソーでした。取扱説明書をよく読みました。「落とし

かけをしないでください」の「落としがけ」も解らないゼロからのスタートでした。運べる長さに切った手持ちで運ぶという「手持集材」。やがてロープで引くことを経てトビを知り、やっと「土曳き集材」に発展。毎週が楽しみでした。山に行くこと、仕事が進むこと、危険の予測が当たるとうれしい、ガソリンがなくなるとうれしい、1升の水を飲みきるとうれしいなど夢中でした。山仕事についてインターネットで調べて、また本も読んで拡大造林後の山の様子やだんだん解りました。首都圏でのボランティア活動が盛んな点にも驚きました。楽しいことがどんどん先にあ

しかった。木がなくなり、初めて自分は山でする山仕事が好きだったのだと気がつきました。最初は薪が欲しいだけでした。さみしいですがチェーンソーもガソリンを抜いて手入れをして休眠させることにしました。しかし再び混合ガソリンを作るまでその時間は過ぎませんでした。

ぼっかり開いた心の穴にためこむ飯と仕事をさしのべてくれたのは失恋レストラン(古い)のマスターではなく森林塾の先輩である浜田さん夫婦でした。ハマダ山で遊ばせてくれたのです。山へまた行けるといのが嬉しかったです。うきうきして混合ガソリンを作りました。嬉しかったですね、本当に。  
秋冬は会社が忙しくなります。しかし都合がつけば、伊那市の森林ボランティアなどをやりKOA森林塾への入塾を心待ちにしています。一人じゃない、本を読んでいた



軽トラックと浜田さん夫妻

匹です。ねこは仕事をしません。芸の一つもありません。しかし先日ひのきの間伐材を与えたとこ毎日つめを研ぎ、商品化への可能性を訴えている気もします。

当組合は、やまなみ森林鉄道が前身です。以前に木で林鉄の模型を作りたいと考えていました。山のジオラマを作って、製材所、集材風景、貯木場、山の木の中を走るのです。その鉄道名がやまなみ森林鉄道。木曾

にいつて保存車両の寸法取りや撮影をしました。しかし薪集めに忙しくなり「鉄道ばかりもやってみられんな」と、やまなみ森林組合に改名。以来、調子に乗ってヘルメットなどに書き込むようになったのです。

これからの当組合は森林塾で技能を身につけ、生き生きとした山が少しでも広がるように仕事をし、そして山のめぐみも楽しんで暮らしてゆこうと思っています。技能をつけたらどこで、どう生かすかが課題ですね。終わりに 今後ともよろしくお願ひします。

やまなみ森林組合  
自分で作った森林組合で組合員は自分と妻京子とねこ

# リー通信

山の子京子が今日もゆく  
成田 京子



駒ヶ根市で生まれ、三才の時から伊那市へ移りそこで大きくなりました。実家は天竜川と三峰川の合流点に近く、よく河原で遊びました。こどもの頃はハリエンジュの茂みに基地を作ったり、近くの小さな草藪を植物園と呼んで名前を書いてた荷札を様々な草につけて楽しんで、それから小さい魚や虫、トカゲやカエルを見つけて眺めたりする事が好きでした。



今山へ目を向けている私は、もともと草木や虫、動物がとっても好きで、だからそれがいっぱい集まり育まれる山が好きなのかもしれません。でも山好きに理屈なんかなくて、わたしにとってはただただくつろぐ場所です。

両親が山好きだったのでよく山へ連れていかれました。草木や山菜を覚えることは楽しいことです。私の山に対する評価は「楽しい山」食べられる草・木の芽や実・美しい草木・おもしろい草木があったりして、歩きやすく多彩で美しい山と、それに対して「楽しくない山」暗くておもしろいものや美しい草木がなかったり、藪が深くて歩けなかったり、立ち枯れた木がたくさんあってお化けの森みただけだったりする山、その二つに分かれていて、今その見方はあまり変わっていませんが、森林塾に参加して勉強し新しい見方も加わりました。今は手入れのされた元気な山かどうかも気が掛かります。

わたしの職場は自動車部品を作る製造会社の事務所で、山を持っていく人は思いのほか多く、でも話を聞くと徒歩で一時間も歩かないと自分の山に行けないから行ったことがないという人、自分の山の場所を知らないと言う人、わたしに「山ってなにか手入れが必要なの？」と聞く人すらいて、彼の家はおじ

いさんが亡くなってからは風呂の薪もよそから入手しているとのこと、自分の山と薪風呂があるのもつたないこととです。今の山主さんには本当にそのような人が多いということを身近で感じていきます。

木が草が小さい生き物が好き、だから山が好き、というだけで、気に入った場所へ出掛けてただ楽しむだけだったわたしは、森林塾に参加した今「楽しくない山」がどうしてそんな姿なのか知っています。「楽しい、元気な山」にする方法を知り、そのすべも身につけつつあります。森林塾に参加して少し山仕事が出来たようになったとしても、それをすぐに生業としては行かないだろうとは思いますが、山守りが必要だということとを小さな力だけれど私の周りからも発信し始めよう、そして伝え続けようと思えます。

わたしのおもむきで、薪ストーブ、鉄道などが好きで森林鉄道にも詳しく、山へ出掛けても林鉄跡に目が向いたりしてわたしとは違った視点も持っています。同じ場所でも見る場所感することがそれぞれでおもしろい。山に目が向いているのでわたしが大好きな山をうるつくことが出来、いい人に出会ったなあ

ともつけた気持ちです。KOA森林塾に最初から強い興味を持っていったのも、わたしは参加をするかどうか、ずいぶん悩みました。ただ山や草木が好きなのだけのわたしは、目指すものがある人達が集まる真剣な勉強の場所にはそぐわないのではないだろうか、そして自分自身参加することが苦痛になりはしないだろうか、そのような心配がありました。

でも今までのわたしの目に加え、林業という立場からの山の見方を得たり、わたしの好きな草木についても毎回新しく深く知ることがあり、楽しくて、とてもうれしい気持ちです。先生方、インストラクターの方達、それぞれに熱い気持ちを持った個性ある塾生のみなさんや、そこからつながって知り合いわたしの人に入ってくる人たちがとても大切で、出会えてうれしく思っています。

ここで身につけた力をわたしの好きな山のために発揮し、周りに伝えていきたい、そしてそれが水の波紋のように広がって、日本中の人が自分の住む地の山を愛し、かけがえのない愛着のある美しい場所、大切な場所にするよう力を尽くし、心と暮らしのよりにどころとなる・・・そんな世の中になつたらいいと思えます。

夏休みは青春十八きつぷと、いう割引切符が使える期間である。十八才までしか使えないような商品名だけど、実は年齢制限はない。二十四時間JRの快速・普通列車乗り放題で五分で一万二千二百五十円である。一日二千二百五十円。これで旅をすると交通費は安い。安宿を見つけたら泊まりで安くあげたつもりが、夜、居酒屋に行くと飲み食いすればあんまり変わらん気がする。遠くまで行くなら先々の終着駅での接続のよい、なるべく早い時間の列車、出来れば快速がいい。すると自ずと列車は決まってくる。その車内で県境現象(県境付近で列車が空いてくる現象)を通して乗っており、窓枠に時刻表があればまず間違いなく十八きつぷの客である。そして一緒に乗り換えをし最終の列車を降りて別れても翌朝また再会する仕掛けになっている。選ぶ列車はその列車なのだ。一様に金は持つてなさそうだがそれぞれ楽しんでる様子。

七才ぐらいの双子のおばあさんが仲良く旅をしているのであった。旅日誌を見せてくれた。かなり旅慣れているのを感じ荷物の小ささがかつこよかった。金をかけない旅の方がいるる出来事があつて面白いのだ。

あつて面白いのだ。駅弁、駅そば、缶ビール。いい。今は珍しい冷房なしの車両では窓を全開にして風に当たれる。方言を聞きながらうたた寝。子供の頃からなじみのディーゼルカーが地方でポンコツだけと未だ現役で走っていたりする。旅情はたっぷりである。

北へ行くもよし。南に行くもよし。日本は結構広い。それぞれで今しかない「今」が過ぎていく。今行きたいところはありますが。見ておきたいものはありますか。今は今しかない。

「山葉 銘斗」

「山葉 銘斗」

「山葉 銘斗」

「山葉 銘斗」

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。  
 TEL 0265-70-7065  
 FAX 0265-70-7994  
 E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp  
 sh-sakano@koanet.co.jp  
 mi-tsuboki@koanet.co.jp  
 携帯:0902-53-26375 (開催日)  
 H.P. http://www.koanet.co.jp


